

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社証券代行部
(電話照会先)	0120-176-417(フリーダイヤル)
(インターネット ホームページURL)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.imagicarobot.jp/ir/announcement.html
上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQスタンダード
証券コード	6879

ホームページ紹介

当社の情報はホームページでもご覧いただけます。

コーポレートサイト

<http://www.imagicarobot.jp/>



IRサイト

<http://www.imagicarobot.jp/ir/>



イマジカロボット

検索

Imagica Robot Holdings Inc.

株主・投資家の皆さまへ

2011年4月1日 ▶ 2012年3月31日

トップインタビュー	1
セグメント別の概況	5
年間トピックス	7
連結財務データ	9
会社情報／株式情報	10

株式会社 イマジカ・ロボット ホールディングス

〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番2号 内幸町東急ビル11階
TEL: 03-6741-5742



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

株式会社 イマジカ・ロボット ホールディングス

証券コード: 6879

映像業界に新たな価値を生みだしてまいります。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

イマジカ・ロボット ホールディングスは、2011年4月1日より上場企業としての新たなスタートを切りました。

株主・投資家の皆さまにおかれましては、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

長瀬朋彦



Q 設立からの歩みについてお聞かせください。

A 1935年に映画フィルムの現像所としてスタートし、映像産業と共に歩んでまいりました。

1935年に、映画フィルムの現像・上映用プリント事業を行う株式会社極東現像所として設立いたしました。1942年に株式会社東洋現像所と商号を変更し、映像の進化に沿って技術力を培い、常に映像産業と共に歩んでまいりました。その後、テレビの普及・カラー化、インターネットの普及など、時代の変遷に合わせて事業領域も拡大し、映画だけでなくテレビ映像の編集・加工や、ビデオやコンピュータなど各種メディア向けの技術サービス事業も開始しました。



2006年にIMAGICAとロボットが経営統合しホールディングス体制がスタート

1986年には株式会社IMAGICAと商号を変更し、2006年には、映画を中心に各種映像の企画・制作を手掛ける株式会社ロボットと経営統合し、映像の企画・制作から流通まで一貫した事業を担う企業グループとなりました。この統合をきっかけに、ホールディングス体制へと移行し、株式会社イマジカ・ロボット ホールディングスが誕生いたしました。

Q 2011年4月の組織再編についてご説明ください。

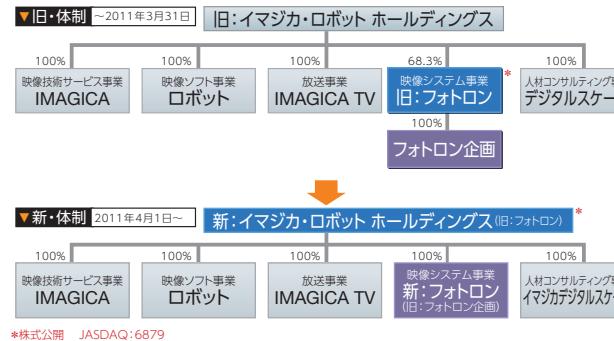
A 上場子会社のフォトロンとの合併により、親会社であるイマジカ・ロボット ホールディングスが上場企業となりました。

1992年に映像システムを開発・製造・販売する株式会社フォトロンに資本参加し、親会社となりました。フォトロンは1997年に株式を店頭公開しており、グループで唯一の上場企業でありました。

映像市場が急速に変化する中でグループとして更なる事業拡大を図るため、各分野の事業を担う主要5社を100%完全子会社とし、持株会社による機動的な意思決定に基づきグループ内の経営資源をより有効活用できる体制へ移行することといたしました。

また、イマジカ・ロボット ホールディングスが株式公開を目指すにあたり親子上場の問題の解消や、フォトロンの少数株主の皆さまの利益の保護等も考慮した結果、2011年4月1日付で今回のグループ組織再編を実施いたしました。

組織再編では、フォトロンを存続会社、イマジカ・ロボットホールディングスを消滅会社とする吸収合併を行い、同時に存続会社であるフォトロンが商号を株式会社イマジカ・ロボット ホールディングスに変更いたしました。また、従来のフォトロンの事業は、あらかじめ設立したフォトロン企画に承継いたしました。



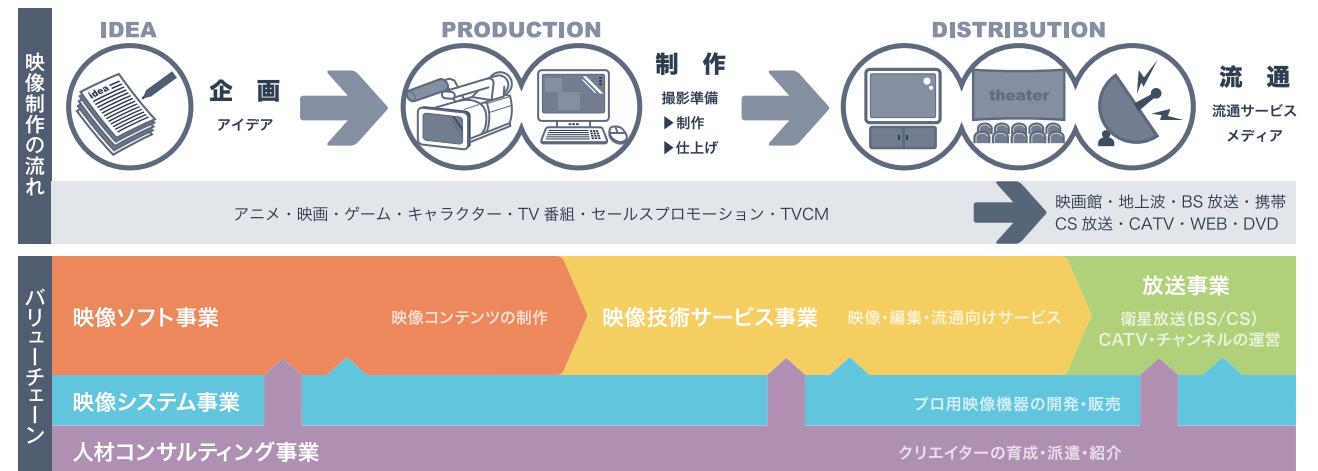
Q 事業内容についてお聞かせください。

A 映像制作の企画・制作から流通まで一貫したバリューチェーンを形成しています。

映像制作は、どんな作品を作るかを考える「企画」から始まり、実際に作品を目に見える形に作り上げる「制作」、そして映像作品を視聴者の皆様にお届けする「流通」と、大きく3つの工程に分かれています。映画やテレビCMなどの映像の企画・制作を手掛ける映像ソフト事業、撮影後の映像の編集・加工などを手掛ける映像技術サービス事業、BS・CSデジタル放送のチャンネル運営を手掛ける放送事業の3つの事業がこの映像制作の流れを担っております。

さらに、この流れを支える事業として、映像機器やシステムを提供する映像システム事業、人材供給を行う人材コンサルティング事業も展開しております。

このように、映像制作のプロセス全体をカバーするバリューチェーンは、他に例をみない当社ならではの事業モデルであります。このバリューチェーンを有するからこそ、グループに映像制作のノウハウが集まり、常に先進的な映像を創り出すことが可能となるのです。



Q 映像業界の動向をどうお考えですか。

A メディアやデバイスの変化に伴い、今後も急速に進展し続けると考えています。

映像業界は、メディアやデバイスの変化に伴い、デジタル化、多メディア化、ネットワーク化、ボーダーレス化などが複雑に絶え間なく進展しています。技術革新のスピードも、日進月歩で加速しています。

当社グループの事業に直結する具体的な動向としては、例えば映画分野においては、フィルム上映からデジタル上映への移行があります。また、テレビ番組やCM制作分野におけるポストプロダクション(映像の撮影終了時点から作品完成までの処理工程)作業もビデオテープからファイルベースへの移行が急速に進んでいます。

テレビを見る環境も地デジだけでなくBS、そしてCSやワンセグなどと多様化し、さらにはパソコンやスマートフォンなどでも視聴できるようになりました。そして、それらの映像は簡単に国境も何も関係なく瞬時にやりとりされるようになりました。

Q 2012年3月期の業績についてお聞かせください。

A グループ組織再編に伴い、大幅に業績拡大いたしました。

期初に行った組織再編の結果、事業領域が拡大し、売上高508億円(前期比8.2倍)、営業利益29億円(同9.9倍)、経常利益29億円(同10.5倍)、当期純利益22億円(同18.4倍)と大幅に業績拡大いたしました。

旧マジカ・ロボットホールディングスとの比較でも、売上高は微増、当期純利益は大きく増加いたしました。

映像技術サービス事業では、映画館のデジタル化に伴い、フィルムの焼増し作業が減少したものの、デジタルシネマ向けサービス(DCP:デジタルシネマパッケージ)の受注案件が大幅に増加いたしました。映像ソフト事業では、東日本

大震災後に落ち込んだテレビCM等の広告制作が下期にかけて徐々に持ち直し、映画制作では「ALWAYS 三丁目の夕日'64」「friends ものけ島のナキ」など全4作品が全国公開され、大変話題となりました。放送事業では、運営する洋画専門チャンネルが2012年3月1日よりBSデジタル放送へ移行し、「IMAGICA BS」として新たに放送を開始し、積極的なプロモーション活動を展開いたしました。

Q 2013年3月期の計画についてお聞かせください。

A バリューチェーンを強化し、増収増益を目指します。

バリューチェーンの強化を目指し、映像ソフト事業と放送事業の拡大に注力してまいります。この2つの事業は、映像制作の流れの中間にあたる映像技術サービス事業に比べまだ事業規模が小さく、拡大の余地が十分にあると考えています。この2つの事業を拡大することで、よりバランスの取れた強固で効率的なバリューチェーンの実現を目指します。

映像ソフト事業では自社開発コンテンツのライセンスビジネスの拡大を進めるとともに、アジアを中心に海外市場への参入を目指します。放送事業では新たに放送を開始したBSチャンネル「IMAGICA BS」で厳選したより良い作品の充実を図り、新たな視聴者の獲得を目指します。また、事業ポートフォリオ強化のため、M&Aも推進してまいります。

2013年3月期は売上高547億円(前期比7.5%増)、営業利益31億円(5.6%増)、経常利益32億円(9.2%増)、当期純利益21億円(5.5%減)を見込んでいます。

Q 経営理念をお教えください。

A 楽しい驚きを提供する「MAGIC FACTORY」を目指しています。

マジカ・ロボットグループは、誠実な精神をもって、映像コミュニケーションにおける新たな価値創造につと

め、人々に楽しい驚きを与える“魔法の工場”をめざします。

“誠実な精神”には、公正・公平、Win-Win(皆にメリットがある)などの考えを込めています。株主の皆さまをはじめ、全てのステークホルダーの皆さまとの信頼関係を継続することがグループの基本的な価値観となっています。お客様の信頼を積み重ねていくことが、結果として業績の向上にもつながると考えています。また、“楽しい驚き”と謳っていますのは、「期待を上回る」満足を提供しよう、そういう仕事をしていこうという誓いです。創造力や技術力、あらゆる創意工夫「MAGIC」を次々と生み出し、楽しい驚きを提供する企業を目指しております。

MAGIC FACTORY

Image Magic Creative Magic Technology Magic Communication Magic

マジカ・ロボットグループは、誠実な精神をもって、映像コミュニケーションにおける新たな価値創造につとめ、人々に楽しい驚きを与える“魔法の工場”をめざします。



Q 最後に株主さまへ一言メッセージをお願いします。

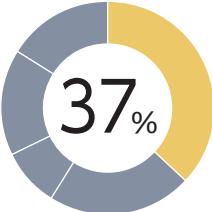
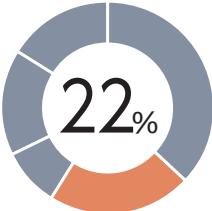
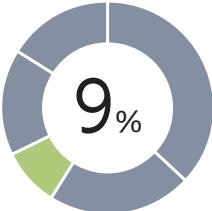
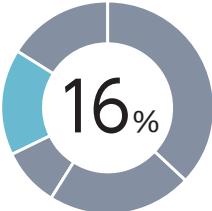
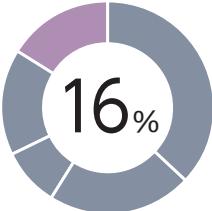
A 安定的かつ適切な利益還元を方針とし、当期は1株当たり年間15円に増配しました。

当社は、成長が見込まれる事業分野に経営資源を投入して、持続的な成長と企業価値の向上を図り、株主価値の増大に努めてまいります。当期の配当金は、前期の1株当たり年間10円から5円増配して年間15円といたしました。今後とも、株主の皆さまに対する安定的かつ適切な利益還元をはかることを経営の最重要事項のひとつと位置づけてまいります。

連結子会社(2012年4月1日現在)

- 映像技術サービス事業
 (株)IMAGICA
 (株)IMAGICAウェスト
 (株)IMAGICAイメージワークス
 (株)IMAGICAトータルサービス
- 映像ソフト事業
 (株)ロボット
 (株)ピクス
 (株)ジェンコ
- 放送事業
 (株)IMAGICA TV
- 映像システム事業
 (株)フォトロン
 フォトロン メディカル イメージング(株)
 PHOTRON USA, Inc.
 PHOTRON EU Ltd.
 アイチップス・テクノロジー(株)
 (株)IMAGICAデジックス
- 人材コンサルティング事業
 (株)マジカデジタルスケープ

セグメント別の概況

事業セグメント	事業内容	2012/3 売上高構成比	2012/3 業績	事業の概況
映像技術サービス事業	 Imagica 株式会社IMAGICA 他3社 撮影、映画用フィルムの現像・プリント、TV番組・CM・PR等のビデオ映像・音声編集、VFX・CGI制作、DVD/Blu-ray Diskパッケージ化、3D撮影・編集など、あらゆるご要望にワンストップで対応する映像技術サービスを展開しています。		売上高 202億15 百万円 営業利益 31億19 百万円	映画分野では、フィルムプリントからデジタルシネマへの移行が急速に進んだことで、デジタルシネマ向けサービス(DCP)の受注が大幅に増加いたしました。テレビ番組、CM制作分野のポストプロダクション作業では、テレビCM関連の受注量が増加し堅調に推移いたしました。また、テレビ番組制作対応の新拠点として、「渋谷スタジオ」を設立し、2012年3月1日より営業を開始しております。
映像ソフト事業	 ROBOT 株式会社ロボット 他2社 劇場映画・TVドラマ番組・アニメーション作品・Web関連映像の企画制作、TVCMを中心とした広告制作、ミュージックビデオを主とした音楽映像制作のほか、各種映像コンテンツのライセンスビジネスを行っています。個々の分野で確かな実績をあげるとともに、クロスメディアコミュニケーションへの対応も展開しています。		売上高 121億68 百万円 営業利益 2億46 百万円	広告制作分野では、上期は震災の影響によりテレビCM案件の減少および予算の縮小がございましたが、下期にかけて徐々に改善いたしました。映画分野では、制作活動および出資を行いました「RAILWAYS 愛を伝えられない大人たちへ」「friends ものけ島のナキ」「ワイルド7」「ALWAYS 三丁目の夕日'64」の4作品が公開されました。またテレビドラマの番組制作や、携帯電話向けコンテンツ制作なども積極的に展開いたしました。
放送事業	 Imagica 株式会社IMAGICA TV 衛星放送(BS / CS)・CATV・インターネット放送・ホテルペイテレビ等の視聴者の皆様に向けて、番組の放送・コンテンツ供給を行っています。3つの専門チャンネルを運営しており、高品質の映像コンテンツを企画・制作・編成してお届けしています。		売上高 46億72 百万円 営業損失 59 百万円	放送分野では、「洋画★シネフィル・イマジカ」「食と旅のフーディーズTV」「歌謡ポップスチャンネル」の加入者数および単価が向上し、視聴料収入が堅調に推移しました。なお、「洋画★シネフィル・イマジカ」は2012年3月1日よりBSデジタル放送へ移行し、新たに「IMAGICA BS」として放送を開始しております。BS放送開局に伴い、積極的なプロモーション活動を展開するなど先行投資費用が増加いたしました。また、スポーツ&エンターテインメント情報配信アプリ「DAFLOID」のサービスを拡充しております。
映像システム事業	 Photron 株式会社フォトロン 他5社 映像・画像に関わる最先端の映像関連機器やソフトウェアの開発・製造・輸入・販売・保守サービス、画像関連LSIの開発・販売等の事業を展開しています。世界中をマーケットに販売しており、あらゆるトッププロフェッショナルの期待に応えています。		売上高 85億70 百万円 営業利益 6億32 百万円	イメージング分野では、高速度ビデオカメラが震災の影響もあり新製品の発売遅れがございましたが、海外市場を中心に堅調に推移しました。プロフェッショナル用映像機器分野では、受注競争が熾烈化する中、大手放送局への大型映像システムを受注いたしました。
人材コンサルティング事業	 IMAGICA DIGITALSCAPE 株式会社イマジカデジタルスケープ 他1社* デジタルクリエイターやITエンジニア、映像制作者など、クリエイティブ分野に特化した人材派遣、人材紹介、トレーニング等のサービスを行っています。その他、ゲームやWeb、映像などの制作受託サービス、並びに写真や動画の撮影サービスも行っています。		売上高 87億49 百万円 営業利益 1億73 百万円	人材派遣・請負サービス分野では、期初に株式会社イマジカデジタルスケープが株式会社IMAGICA PDを合併し、従来のWebやゲームのクリエイターの人材派遣・請負に加え、新たに「ポストプロダクション領域」で映像の編集や加工・録音といった映像技術者の人材派遣を開始いたしました。また、コンテンツ制作受託の分野では、ゲーム制作を中心に受注を着実に獲得いたしました。

*株式会社イマジカデジタルスケープは、2012年4月1日付で株式会社マルチビッツを吸収合併しております。

年間トピックス

2011年

● グループ組織再編によりイマジカ・ロボットホールディングスが上場企業に

受賞

ピクス企画・制作の『タイムスクープハンター・シーズン2(2010年4月12日:NHK放送)』がシカゴ国際映画祭 第47回 ヒューゴ・テレビ賞のバラエティ・エンターテインメントシリーズ部門で奨励賞受賞

● IMAGICAがWeb生放送ニコファーレ完成披露記者発表会でAR LIVE運用

● JASDAQ市場における株式の所属業種が「情報・通信業」に変更

● 本社事務所を東京都千代田区内幸町に移転

● 米国アカデミー賞短編アニメーション賞受賞『つみきのいえ』監督:加藤久仁生(ロボット所属)初の展覧会を全国で2012年9月17日まで開催

● NHKエンタープライズとピクスの共同制作による大規模なプロジェクト『SEIKEI 3D PROJECTION MAPPING』を成蹊学園で開催

受賞

● ロボット制作のテレビ東京ドラマ『鈴木先生』が日本民間放送連盟賞(テレビドラマ番組部門)最優秀賞受賞

● 海外事業の強化としてロボットが『アジア・コンテンツ事業戦略チーム』を設立

● フォトロンが国産CADのロングセラー『図脳RAPIDPRO17』および『図脳RAPID17』新発売

● スポーツ&エンターテインメント情報配信アプリ『DAFLOID(ダフロイド)』がAPP Store Rewind 2011のiPhoneアプリニュース部門に選出

DAFLOID

● ロボット制作の映画『ALWAYS 三日月の夕日'64』(シリーズ第3作)が全国劇場で3D/2D同時公開

受賞

● IMAGICA TVが制作・発売のBlu-ray Disc『山猫』がDEGジャパン・アワード/ブルーレイ大賞で最高賞受賞

● IMAGICAが独自のデータインジェストシステム『ONSET DOCK』開発

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

2012年

受賞

● ピクス制作の『WOWOW Station ID』が放送業界の世界的コンクール2011 PromaxBDA Promotion&Marketing World Gold AwardsのBranding/Image Promotion部門で銀賞受賞

● マッシュメディアネットワークが運営するSNS『タベラッテ』のクロスメディア展開としてフーディーズTVで『タベラッテTV』放送開始



受賞

● IMAGICAが3D制作技術サービスを提供した映画『一命』が第1回パオアルト国際映画祭で世界最高の3D技術賞を受賞

● IMAGICAがテレビ生放送初の独自AR技術を用いたライブグラフィックスサービスをWOWOW大開局祭に提供

● イマジカ・ロボットホールディングスが出資する、韓国総合チャンネル『TV 朝鮮』が12月1日開局、放送開始

● ロボット制作の3DCGアニメーション映画『friends ものけ島のナキ』が全国劇場で3D/2D同時公開、韓国でも大ヒット

受賞

● ロボット制作のテレビCM『ここで、一緒に』(大和ハウス工業企業広告)が2011 ACC CM FESTIVALでACCゴールド受賞

● IMAGICAがテレビ番組制作対応拠点として『渋谷スタジオ』設立

● BSチャンネル『IMAGICA BS』(BS252ch)を放送開始



● ロボットがMobage(モバゲー)で『ドラえもん』のソーシャルゲームを配信開始

- イマジカ・ロボットホールディングス関連トピックス
- グループ会社トピックス

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 2011/3		当期 2012/3
	(旧:フォトロン)	(旧:IRHD)	(新:IRHD)
流動資産	4,115	25,239	24,937
固定資産	873	14,323	14,636
資産合計	4,989	39,563	39,573
流動負債	1,063	15,370	12,899
固定負債	141	2,647	3,033
負債合計	1,205	18,017	15,933
株主資本	3,874	20,622	23,542
その他の包括利益累計額	△223	△312	△51
少数株主持分	132	1,236	148
純資産合計	3,784	21,545	23,639
負債純資産合計	4,989	39,563	39,573

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期 2011/3		当期 2012/3
	(旧:フォトロン)	(旧:IRHD)	(新:IRHD)
売上高	6,233	50,817	50,865
売上総利益	3,621	14,311	14,347
営業利益	296	3,501	2,935
経常利益	282	3,469	2,980
当期純利益	121	1,412	2,222

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期 2011/3		当期 2012/3
	(旧:フォトロン)	(旧:IRHD)	(新:IRHD)
営業活動によるキャッシュ・フロー	347	5,904	2,902
投資活動によるキャッシュ・フロー	△89	881	△1,510
財務活動によるキャッシュ・フロー	△724	△2,821	△2,952
現金及び現金同等物に係る換算差額	△17	△17	20
現金及び現金同等物の増減額	△483	3,946	△1,538
現金及び現金同等物の期首残高	2,319	6,382	10,329
現金及び現金同等物の期末残高	1,836	10,329	8,790

連結財務ハイライト

■旧:フォトロン ■旧:IRHD ■新:IRHD

(単位:百万円)



※IRHD = 株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス

会社概要

商号	株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス Imagica Robot Holdings Inc.
設立	1974年6月10日(創立:1935年2月18日)
本店所在地	東京都品川区
事務所所在地	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番2号 内幸町東急ビル11階
資本金	32億4,491万5,250円
代表者	代表取締役会長 長瀬文男 代表取締役社長 長瀬朋彦
従業員数	1,303名(807名)

※ 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に外数で記載しております。

役員 (2012年6月22日現在)

代表取締役会長 グループCEO	長瀬 文男
代表取締役社長社長執行役員	長瀬 朋彦
取締役常務執行役員	角田 光敏
取締役	北出 継哉
社外取締役	中内 重郎 伊与部 恒雄
執行役員	大久保 力 竹岡 峰夫 安藤 潤
常勤監査役	板東 重武
社外監査役	杉野 翔子 岡田 光一郎

株式の状況

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	44,531,567株 (うち自己株式5,158,080株、除く自己株式39,373,487株)
株主数	1,568名

大株主 (上位10名)

	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社クレアート	27,863,120	70.77
株式会社三井住友銀行	1,244,500	3.16
株式会社フジ・メディア・ホールディングス	848,000	2.15
株式会社菜プロモーション	800,000	2.03
住友信託銀行株式会社	512,000	1.30
長瀬文男	403,200	1.02
株式会社みずほ銀行	400,000	1.02
株式会社TBSテレビ	320,000	0.81
イマジカ・ロボット ホールディングス 従業員持株会	291,450	0.74
富士フイルム株式会社	267,360	0.68

※ 持株比率は自己株式数(5,158,080株)を控除して算出しております。
※ 住友信託銀行株式会社は、2012年4月1日付で中央三井信託銀行株式会社および中央三井アセット信託銀行株式会社と合併し、三井住友信託株式会社となっております。

株式の分布状況

